

2020年12月25日
日本銀行横浜支店

神奈川県金融経済概況（2020年12月）

I. 概況

神奈川県の景気は、新型コロナウイルス感染症による下押しの影響が残るものの、持ち直している。

輸出は持ち直している。設備投資は、高めの水準で推移しているものの、一部に投資先送りの動きもみられる。雇用・所得環境は弱い動きとなっている。個人消費は、弱い動きが続いているものの、持ち直しつつある。住宅投資は弱い動きとなっている。公共投資は横ばい圏内の動きとなっている。こうした中、生産は持ち直している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 輸出： 新型コロナウイルス感染症による下押しの影響が残るものの、持ち直している。

- ・ 中国向け原動機、非鉄金属、自動車部品などが増加しており、持ち直している。

(2) 生産： 新型コロナウイルス感染症による下押しの影響が残るものの、持ち直している。

- ・ 素材関連は、持ち直している。
- ・ 輸送機械は、乗用車・同部品やトラック・同部品が、国内外での在庫調整進捗などから、持ち直している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、引き続き弱めの動きとなる中、一部で持ち直しの動きがみられる。
- ・ 電気機械は、電子部品・デバイスを中心に、持ち直している。

(3) 設備投資： 高めの水準で推移しているものの、一部に投資先送りの動きもみられる。今後の推移については、新型コロナウイルス感染症の影響に注意する必要がある。

- ・ 20/12月短観における設備投資の20年度計画は、大型投資の反動から前年度を下回っているものの、競争力強化に向けた研究開発、インフラ、物流関連投資などがみられている。ただし、製造業の一部では、収益悪化に伴い、投資を先送りする動きもみられる。

(4) 雇用・所得環境： 新型コロナウイルス感染症の影響から、弱い動きとなっている。

- ・ 20/11月の有効求人倍率（就業地別）は、前月から上昇した。20/9月の常用雇用者数と名目賃金は、前年を下回った。

(5) 個人消費： 新型コロナウイルス感染症の影響から、弱い動きが続いているものの、持ち直しつつある。

- ・ 百貨店売上高は、引き続き弱い動きとなっている。
- ・ スーパー、ドラッグストア売上高は、食料品や日用品、衛生用品などで需要の高まりがみられている。
- ・ 家電販売額は、持ち直している。
- ・ 新車登録台数は、持ち直しつつある。

《参考》

- ・ 一部に持ち直しの動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響から、県内の宿泊施設および観光施設の利用者数は減少している。

(6) 住宅投資： 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、弱い動きとなっている。

- ・ 20/10月の新設住宅着工戸数は、分譲マンションが増加したものの、貸家、分譲戸建て、持家が減少したことから、全体では前年を下回った。

(7) 公共投資： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 20/11月の公共工事請負額は、都道府県が減少したものの、独立行政法人等、市町村、国などが増加したことから、全体では前年を上回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出：引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けは住宅ローンを中心に増加している。法人向けは運転資金需要の高まりがみられている（貸出金末残前年比：20/9月+3.8%→10月+4.3%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、緩やかな低下傾向にある（月末貸出約定平均金利：20/9月1.052%→10月1.050%）。

(2) 預金：引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：20/9月+8.0%→10月+8.2%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。